



2024年4月18日

各 位

会 社 名 G F A株式会社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 片 田 朋 希  
(コード番号：8783 スタンダード)  
問 い 合 せ 経 営 企 画 部 長 高 士 隼 人  
(TEL. 03-6432-9140)

## 北京藍深科创科技有限公司との戦略的パートナーシップ契約締結に関するお知らせ

当社は、2024年4月18日開催の取締役会において、北京藍深科创科技有限公司（以下、「北京藍深」といいます。）と戦略的パートナーシップ契約を締結し、裸眼立体視技術を組み込んだ携帯端末を日本国内の事業者に向けて販売を推進していくことに関して協業することで決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

### 1. 協業の目的

当社は、不動産・金融事業を本業とし、最先端のメタバース空間の展開を含めた様々な事業開発・金融支援を行っております。複数の事業会社を子会社、関連会社として有しており、それら事業を連携させながら、メタバース・フィンテックといった最先端領域の市場創造にも尽力をしつつ、本業の不動産・金融事業の収益を最大化すべく事業推進を図っております。

このなかで、当社の展開する CLUB CAMELOT 及び空間をメタバース化した META CAMELOT において、株式会社サイフなどとも連携し、中国人富裕層を対象としたインバウンド向けにメタバース事業の推進を図ってきましたが、北京藍深からその取り組み方に着目、関心を持っていただいていたことから、北京藍深と懇意である当社社員を介する形で改めてご紹介を受けて、北京藍深から当社へ協業を前提にした打診もいただいたことから、両社で協業できる事業に関して協議を行ってきました。

北京藍深については、2010年の設立以来、裸眼3Dテクノロジーの研究開発と革新的なアプリケーション開発を行っている、中国における裸眼立体視装置の業界でも先進的な企業であります。

裸眼立体視技術（※）と呼ばれる、広告クリエイティブや静止画が裸眼で見ても浮き上がって見えるようなテクノロジーを自社で有しており、中国国内でも中国3D産業同盟標準化技術委員会からその技術に関して表彰を受けるなどしております。

（※）裸眼立体視技術に関して：<https://d.kuku.lu/hgcj2fra3>

北京藍深では、特に日本国内事業者に対する自社サービスの拡販に向けて、日本における協業パートナーを模索していたことから協議を進めるなかで、当社のメタバース空間開発事業においては、AR領域等に一定程度の知見を有しておりますが、通常のARやメタバースでは、VR閲覧用の端末やARを表示するためのスマホ端末等が必須となっており、物理的なデバイスを経由しないと、リアリティのある、浮き上がるような静止画・映像を閲覧することができないという課題もあり、北京藍深の有する裸眼立体視技術を活用できれば、裸眼の状態を対象物（広告クリエイティブ等）を閲覧しても、リアルな3Dとして浮き上がるように見えるため、クリエイティブ配信事業者にとって、表現の幅が大きく広げることができるという利点も見出しました。

そして今回、当社が開発するメタバース空間「META CAMELOT」の運営、レーシングゲームの「THE 峠」の提供に加えて、2024年3月22日付の当社ホームページ上でのプレスリリース「エムケイドットエックス社との戦略的業務連携の推進に関するお知らせ」で既報のとおり、エムケイドットエックス株式会社の日本国内におけるEV事業の展開上で、販促・広告媒体で裸眼立視技術を活用する等に関しても今後協議を行うことも決定しており、当社グループにとっては収益にも資することでもあると判断したため、北京藍深との戦略的パートナーシップ契約締結に至っております。

## 2. 協業の内容

北京藍深との協業により、当社は北京藍深の有する裸眼立体視技術にまつわる製造・開発ノウハウを活用し、当社及びゲーム事業を展開する当社完全子会社のクレーンゲームジャパン株式会社などグループ企業の取引先や人的ネットワーク等も駆使しながら、携帯事業者（キャリア）、ゲーム会社、広告配信事業者等に対して、裸眼でも浮き上がって見える広告クリエイティブへの展開を加味した販促営業・マーケティング支援を実施していきます。

特にゲーム事業者・映像配信事業者に対しては、特段の閲覧用デバイスを必要とせずとも、リアリティのある3Dクリエイティブが見える技術は、自社コンテンツをより魅力的に見せるものであり、広告代理店等との連携も図りながら、当社が主導し、日本国内において積極的に事業展開を推進していきます。

具体的には、

- (1) 戦略的パートナーシップ契約締結によって、北京藍深が開発・製造する裸眼立体視装置の技術を携帯端末に組み込むことを対象事業として、当社及び当社グループ企業を通じて、対象事業に伴う販売権利を当社が有することとなります。
- (2) 当社は上記(1)対象事業に伴う販売権利の範囲内で裸眼立体視技術を搭載した携帯端末の販売とマーケティングを行い、北京藍深は当社を通じた日本国内事業者に対して裸眼立体視技術の提供と技術サポートを行っていきます。

今後は、当社の本業が不動産事業であり、賃貸・売買用の3Dパースに触れる機会も多くあることから、当社自身がARの活用シーンを拡充することができること、また前述のエムケイドットエックス株式会社を通じた広告媒体等を活用することで、北京藍深の裸眼立体視技術を日本国内においても広く認知させながら、当社がアプローチできる以外の販促見込み顧客層の開拓をしていくことも視野に入れております。

## 3. 相手先の概要

(1)	名 称	北京藍深科创科技有限公司	
(2)	所 在 地	北京市大兴区金苑路 32 号 2 幢 1 层	
(3)	代表者の役職・氏名	法定代表人 王辉	
(4)	事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術開発サービス、アニメーションのデザインと制作</li> <li>・ソフトウェア開発、広報サービス、経済貿易コンサルティング</li> <li>・イベント展示サービス、翻訳サービス、装飾広告のデザイン</li> <li>・テレビ番組の制作</li> </ul>	
(5)	資 本 金	500 万元	
(6)	設 立 年 月 日	2010 年 4 月 6 日	
(7)	大株主及び持株比率	王辉 66.67% 他株主 33.33%	
(8)	上 場 会 社 と 当 該 会 社 の 関 係	資 本 関 係	該当事項はありません。
		人 的 関 係	該当事項はありません。
		取 引 関 係	該当事項はありません。

	関連当事者 への該当状 況	該当事項はありません。
(9)	当該会社の最近3年 間の連結経営成績及 び連結財政状態	相手先の意向により、非開示とさせていただきます。

#### 4. 日程

(1)	取締役会決議日	2024年4月18日
(2)	契約締結日	2024年4月18日
(3)	事業開始日	2024年5月1日(予定)

#### 5. 今後の見通し

本パートナーシップ契約締結が当社2025年3月期の連結業績に与える影響につきましては軽微である見込みです。

現在、具体的な利益分配の割合等の条件を事業開始までに別途協議により定めていく予定ですが、今後、開示すべき影響等が判明した場合は、速やかにお知らせいたします。

以 上